青森県　グループホームながしま（2階）

平成　29　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0290100064		
法人名	有限会社ながしま		
事業所名	グループホームながしま		
所在地	青森県青森市中央3丁目1-3		
自己評価作成日	平成２９年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会
所在地	〒030-0822　青森県青森市中央3丁目20番30号　県民福祉プラザ3階
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・　理念を共有し、ケアの質の向上を目指すと共に地域との交流にも力を入れております。

・　災害時の体制についても近隣者の協力を得る体制を作っています。

・　スタッフ個々に理念、目標を立て働く事が大切と考えており、職場内研修、職場外研修への参加の他、資格取得に　　　向けスキルアップに力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	〇	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	〇	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	〇	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	〇	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	〇	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		〇	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		〇	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		〇	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		〇	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	〇	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに運営理念を提示し、常に把握出来るようにしている。又職員会議においても代表や管理者より説明をされている。日々のケアの他、ケアプラン作成時にも心掛けている。		
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事等を通し交流している他、地域のリサイクル活動へ参加したり、地域の行事にも招待して頂いている。又、地域の方と挨拶を交わし交流が図られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学生の実習生受け入れを行った他、施設に来られた突然の見学者にも説明や案内を行っている。また、地域ケア会議へ毎回参加し、民生委員や町会長、他事業所職員と事例検討を行って、認知症の方の支援について理解を深めるよう努めている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、議案についても参加者からの意見を聞いて決定し、話し合いや活動内容の報告を行っている。質問や意見、要望が出しやすい様に進行しており、マニュアル変更や行事等にも反映させている。		
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、事故発生時は速やかに報告し、解らない事や疑問等の相談確認をし連携を図り取り組んでいる。又、生活保護の方も入居しているので、密に連絡している。		
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の方針として、介護理念にも掲げられ、職員会議で代表よりも話されている他、職場内研修でも行われ、事業所独自のマニュアルも整備されている。施錠に関しても日中は鍵を掛けず夜間のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職場内研修で定期的に学んでいる他、職員会議でも代表や管理者よりあってはならない事と説明されている。身体的虐待の他言葉の虐待についても説明されており、職員1人1人が虐待防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、権利擁護を利用していた利用者がいた他、ユニットは違うが成年後見制度を利用している利用者がおり支援している。今後も必要とあればご家族と共に考えたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学等に来られた場合、丁寧な対応と説明を行っている。又、契約時オリエンテーションを行い、ケアに関する考えや取り組みの説明をし理解を得た上で、本人、ご家族の意向を聞きケアプランに反映させている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見要望を聞き反映出来るように努めている他、玄関に意見箱の設置確認を行っている。又面会時の他、2ヶ月に一度状況報告書の送付や、広報誌にも記載し意見を吸い上げれる様にしている。		
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全員参加の職員会議を実施し全員が意見交換が出来る機会を設けている他、代表と職員が個人面談を行い反映させている。.		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行う他、資格取得の支援も行われている。又、就業規則に基づき、昇給、資格手当の他、処遇改善手当も支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内、職場外研修の他、介護福祉士、ケアマネの資格取得に向けた情報提供や支援をしておりスキルアップの機会を設けている。職場外研修後は職員会議で、復命書報告も行われ皆に周知されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会、老人福祉協会等で開催している職場外研修へ参加している他、情報交換会や交流会へ参加し意見交換をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行い本人の状況や要望の把握に努め入所後は不安にならない様なケアプラン作成を行っている。思いを受容・傾聴し、安心して生活して頂ける様、コミュニケーションを図り関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の求めている事を理解した上で事業所として出来る事、出来ない事の説明をし、次の段階へ繋げる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思いを伺う他、状況を確認しニーズの把握に努めている。早急な対応が必要な場合は柔軟な対応をし、必要な支援に繋げる様にしている。可能な限りの対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、一人一人の思いを把握できるよう努め、苦しみ、不安、楽しさ、嬉しさ等を理解する為、会話やコミュニケーションを多く取り、共に支え合いお互いが協力し合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を一緒に支援する考えのもと、2ヶ月に1回、本人の様子や変化等を記入した状況報告書と写真を同封し発送している。又、面会時には情報を頂いたり提供したり情報を共有し、協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している、病院、書店等に行ったり、ご家族が来園したりする他、喫煙場所にて近隣住民と挨拶や会話をする利用者もおり、交流が継続できる様な体制作りが出来ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に要望を聞いたり、孤立しない様にしており、月2回皆でおやつや昼食作りの際、利用者同士の関係性も考え席の配置をしたり利用者同士の関係が上手くいく様、調整役となる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了されたご家族が相談に来られた場合は出来る限りの情報提供を行い相談に乗り継続的な付き合いを支援している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりでは、言葉だけでなく、表情、態度等も観察し、聴覚障害者にはジェスチャーを交え把握に努め、意向に添えるよう心掛けている。又日誌や記録、申し送りノートを活用し職員間で共有し、統一したケアに取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の際、本人やご家族、関係者からこれまでの暮らし等の様子の聞き取りをする他、入所時はアセスメント情報を把握し、入所後は会話の中から情報やニーズも把握出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活リズムを理解し、行動、言動、体調の変化を把握するよう努めている。精神面、心理面にも注意を払い、出来ない事ではなく出来る力を伸ばせる様、全体の把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の係わりから意見を聞く他、ケース担当以外の職員もモニタリングし、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。又、変化が見られた場合は随時介護計画変更も行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルの他、必要な場合は個別に食事、排泄、水分表を用意し、日々の様子や変化等の気付きを記録している。職員同士が情報を確認、共有しておりケアプラン変更時にも役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	予定日以外の通院や外出等へも臨機応変に対応しており　本人、ご家族の状況や依頼に応じ外出や通院等必要な支援は柔軟に対応できる様になっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられる様、町会長や民生委員には運営推進会議のメンバーをお願いし、意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかり付け医となっており、ご家族が付き添えない場合は職員が同行し通院後報告をしている。又、通院が困難と思われる方は訪問診療を受けており、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師が出勤して健康管理を行っている。又、状態の変化に応じ受診や往診、訪看等を利用し、適切な医療を受けられる様にしている。又、職員間では申し送り等で確認、連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防げる様、看護師やケアワーカーと連携を取り情報を共有し、家族とも回復状況の情報交換をし、状態の把握の努め早期退院が出来る様、支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいる	入所時「重要事項説明書」にて説明を行う他、終末期対応についてはご家族、医師を交え話し合いをし事業所が対応出来るケアについて説明している。状態の変化がある度にご家族の気持ち、本人の思いを確認し支援につなげている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前、消防署の協力を得て蘇生術やAEDの使用法の講習を行った。又、事業所独自の緊急時対応マニュアルは整備されている他、職場内研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を日中と夜間想定で実施し、利用者にも参加して頂いており、体で覚えてもらえるよう努めている。消防設備会社の協力を得て火災報知機を使用しての通報訓練や、消火器の使用法についての訓練も行っている。又、近隣の協力者も得ており、緊急連絡網で周知され、協力		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議において代表から話される他、尊厳と言う言葉は介護理念に掲げられており、常に目に付く所にあり言葉掛けや対応についてやプライバシーが損なわれない様、勤めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合わせて声掛けをしており、何かを決める場合でも選択が出来る様な聞き方をすると共に、出来る限り思いを引き出せる様に努めている。又、意思表示が出来ない方にはジェスチャーや表情からも読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った様な過ごし方はしておらず、又余暇活動や軽作業、休息等も1人ひとりの思いや体調に配慮しながら柔軟に対応できる体制となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に本人の意向で決めてもらっているが、季節に合っていない服装や、自己決定が難しく支援が必要な時には本人の思いに添える様な助言をし、支援している。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	オシボリを畳んでくれる方、オシボリや箸を配ってくれる方、食器を拭いてくれる方、テーブルを拭いてくれる方等、本人の出来る事を継続して頂ける様にしている。職員が昼食のみ利用者と同じテーブルを囲んでいる他、月1回利用者がメニューを決め、準備から一緒に行う昼食会の際		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量を記録する他、摂取量が少なかったり、ばらつきのある方は、細かく把握出来る様、個別に食事量、水分量も記録し職員が情報を共有している。食事形態は個別に刻み食、超刻み食、ミキサー食等も提供している。又、献立は関連事業所の栄養士が作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、能力に応じて見守りや介助を行っている。就寝前は必要があれば義歯保管を行っており、残渣物による誤嚥が起こらない様に気を付けている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間や習慣、排泄パターンを把握し、トイレ誘導する事で排泄を促す他、尿意を訴えない方は排泄表を活用し、パターンを掴み声掛け誘導を行い、トイレでの排泄を続けられる様、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	朝食前、乳製品を提供し、繊維質の多い食材を献立に取り入れ水分摂取量の把握をしている。それでも少ない場合は摂取を促したり、昼食前にラジオ体操を行う等の支援をし自然排便が出来る様、努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は決まっているが、希望があれば何時でも対応出来る体制となっている。又、浴槽に入る人、シャワー浴の人、同姓介助等、個々に合わせている他、入浴を拒否した場合等は時間をずらす等の支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活のリズムを整える様に努め一人一人の体調や年齢等を考慮しゆっくり休息が取れる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成している。処方箋を保管し職員がいつでも見れる様になっており、内服薬の変更時は副作用等注意事項の申し送りをし、観察と記録を行い、変化に対応出来る様にしている。又、服薬介助や確認も支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員参加のレクリエーションの他、音読や折り紙等も行っており、一人一人に合った活動を取り入れている。軽作業等を行って頂いた後は感謝の気持ちを伝えている。又、嗜好品はコーヒー、生姜湯、アルコール、喫煙等、個々が楽しめる様、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠くへの外出の場合はあらかじめ計画を立て行っている。急な要望があった場合は天候等を考慮し一緒に出掛ける様にしている。又、毎月1回家族と買い物に出掛ける利用者もおり支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で小遣いを管理している人もおり外出や買い物の際、自分で支払いをする事で社会性を維持出来る様、支援している。又、普段お金を所持していない方でも外出時は自分で好きな物を購入して頂ける様、施設で立替し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望にに応じ、利用者がご家族等に電話掛けたり受けたりできる体制となっている。又、毎年、遠方に住む知人へ年賀状を出す際、代筆し交流継続の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の花を飾ったり、季節感を取り入れた作品を飾ったりしている。毎日掃除をする事で清潔感を感じて頂ける様、居心地の良い空間作りを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファー、洗面所前、廊下奥にも椅子を置き、思い思い自由にくつろげる空間作りをしており、好きな場所で休める工夫も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを置いたり、タンス、人形、造花等馴染みの物置いたり飾りったり、愛用品や思い出の品を持ち込み、自分だけの空間と言う認識を持ち、居心地良く過ごせる様に支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない床や、必要な場所に手すりがあり、動線に邪魔な物を置かず残存能力を低下させない様にしている。又、ADLが低下した際、急な変化にも不安や混乱が生じない様に工夫している。		